

# カトリック仙台司教区

## 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378  
1) 義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座：00170-5-95979  
名義：カリタスジャパン

今回は、なんと All Japan 3管区の支援から長崎教会管区の大槌ベースが OPEN です。いよいよ長崎教会管区の活動が始まります。

さらに、大阪教会管区の大船渡ベースの進捗状況や、SDSC 釜石ベースの素敵なイルミネーション。さらにさらに！カリタスの支援では宮城県は歌津のわかめ支援、見なし仮設住宅に対する暖房器具支援、漁業従事者に対する漁船輸送支援。そして今回からのとっておき！活動に邁進する人にスポットを当ててみます。盛り沢山の内容です！

### 大槌が笑う日を夢見て！

「このベースを訪れる人に、神様の祝福があり、この場所が神様と出会う場所となりますように！」濱口司教さまの言葉です。

12月13日(火)午後3時、カリタスジャパン大槌ベースの開所式が、ミサによって始まりました。主司式



元ビジネスホテル！今、大槌ベース！

は浜口末男大分教区司教、共同司式に、平賀徹夫仙台教区司教、菊地功新潟教区司教、その他全国から駆けつけてきた多くの司祭たち約15人と共に開所式のミサと建物の祝福式が執り行われました。



ベース長古木神父！

し、心を一つにして祈りました。

大槌ベースは、長崎教会管区が責任を持ってこの地域一帯の復興支援に尽力するという立上げられたものです。本ニュースレター9号でもご紹介したように、ベース長の古木眞理一神父一行は、先発隊として8月に大槌ベースに入り、以来、何回も長崎からボランティアが来て、ベースの準備を整えてきて、この晴れの日を迎えたものです。

参加者は、釜石ベースのスタッフやでボランティアをしている人々、宮古ベース、大船渡ベースのスタッフたちを中心に、4階建てのビジネスホテルを大槌ベースに提供して下さった道又賢一ご夫妻をはじめ、女子修道会総長管区長会長など、この日を心待ちにしていた約20人が喜びを共に



濱口長崎教会管区担当司教が司式でミサ！



今後の大槌での活躍が期待されます。

なお、大槌ベースのまわりは津波に殆どのものが流され、全く何もない状況です。

住所は下記の通り

〒027-1117 岩手県上閉伊郡大槌町末広町1-4  
TEL 0193-55-5885 FAX 0193-55-5886

ビジネスホテル寿

カリタスジャパン大槌ベース

**ボランティア大募集中！ ボランティア大募集中！**

### 大船渡まもなく OPEN！

カトリック大阪教会管区は、3・11 東日本大震災の甚大な被害を受けた大船渡の地に地域づくりの拠点として「カリタス大船渡ベース」を建設中です。

開所式は1月14日(土)午後2時から行い、続いてパーティーで地域の人々との交流を持ちます。開所に向け、12月25日クリスマスには開所まで20日「カウントダウンお茶っ



完成間近大船渡ベース！

こ」をはじめ、地域の人々と一緒に開所の準備をいたします。

開所前の現在は本格的な活動の準備として、仮設の入居者訪問(当ベースの近隣には大きな仮設住宅や障がい者専用の仮設住宅など多数の仮設住宅があります)、集会室での小ものづくりに参加したり、一緒にお茶を飲んでおしゃべりをしています。また、みなし仮設や被災した自宅で生活している人、貸家、アパートに住んでいる人たちを探し出して必要な支援の情報収集をしています。壊滅した大船渡町には、まだ商店もなく食糧、



八軒街オープンセレモニー！

生活必需品の買い出しは隣町まで行かなければならず、高齢者は「買物難民」となっています。その人々の買物送迎を週2回しています。17日(土)にベースの斜め前に「地ノ森八軒街」がオープンし、地域の人々の

生活を支える商店街が出来ました。この商店街の皆様とも深く関わりながら、ベースが地域の人々の「いこいの場」となり、地域づくりの一つの拠点となっていくことを願っています。ここを「地ノ森いこいの家」と命名しました。それは、チリ地震の津波の大きな被害を受けたとき、ベトレヘム会の神父さまがご自身でつくられた「いこいの家」のことを地域の人々は覚えておられるからです。その歴史的つながりと人々の想いを一つにしての「地ノ森いこいの家」が末永く人々の心のよりどころとなることを願い、地域の人々が中心となつての地域づくりにおいての私たちの役割を模索しながら活動を組み立てていきたいと思っています。

聖霊の導きと皆様の寛大なご支援に支えられて、「希望のしるし」となる「カリタスジャパン大船渡ベース」になるようにお祈りください。 池田雄一神父(ベース長)

住所は下記のとおり

〒022-0020 大船渡市大船渡町字地ノ森43-2

TEL080-2440-5610(ベース)

090-7104-1842(事務局 野田)

カリタスジャパン大船渡ベース

**ボランティア大募集中！ ボランティア大募集中！**

## 宮城・歌津はわかめ支援！



わかめ養殖の浮き玉

歌津の馬場中山集落では 86 世帯の方々が生活していましたが、津波により 96%の家屋が全壊しました。南三陸でも被災度が最も高い地域の一つと言われています。同集落の主産業はわかめ、かき、のり、ほやの養殖業です。特にわかめ

養殖は水揚げ高が最も大きい重要な産業となっていますが、船・ロープ・浮き玉・碇から成る養殖用資材、そして加工施設は全て津波で流されてしまいました。カリタスジャパン・SDSCは、かき、のり、ほやと比較して、育つサイクルが1年未満と短いわかめ養殖業の復旧を支援することで、集落の方々の生活復興に向けた歩みを少しでも後押ししたいと考えています。プロジェクトパートナー団体は漁協馬場中山集落わかめ部会で、船は自分たちで調達努力をし、加工施設は国からの支援を見込む中、カリタスジャパン・SDSCは資材調達資金を支援することで、津波前の4分の1までの養殖施設の復旧を目指します。この支援は、米川ベーススタッフの志津川での活動からつながりました。



歌津漁港と支援物資！

## 船を運ぶのは船？！

気仙沼では津波で養殖用の船が 8割流され、養殖業の再開が難しくなっています。漁協が養殖業者をグループ分けし、残っている数隻を各グループに配分して利用してもらうという、漁船の共同所有を進めているものの、メンバーが使うタイミングが同じであるため



ふねを運ぶ船！

に使いまわしが難しいという理由でほとんど実施されていません。そこで、気仙沼の大谷と本吉地区の養殖業者が元漁協役員を中心に、自分たちでどうにか船を調達して養殖を再開させようと動きました。この動きの概要は、彼らが船を必要としている養殖業者を募り、北海道のNPOが漁の後継者が減少したことにより使われていない中古船を北海道の漁協を通して無償で集め、カリタスジャパンが集めた船を気仙沼まで輸送する資金を支援するかたちです。10月13日に 93 隻の船が気仙沼に輸送され、船を必要とする方々の元へ届けられました。



船の中のふね！

## 釜石のイルミネーション



聖堂から庭木へ 左  
聖堂からマリアさまへ 右



## 寒い仮設にぬくもりを！



みなし仮設住宅に入れる暖房機器

「プレハブの仮設住宅は寒い！」ということで、国は国庫を開いてプレハブの外側に断熱加工を施し、風除室を設置し、さらに追加の暖房器具を入れることを決定しました。ところが、仮設住宅はプレハブだけではありません。民間賃貸アパートや雇用促進住宅などを仮設住宅と「見なす」

いわゆる「見なし仮設住宅」にも大勢の方が住んでおられます。こちらの方は災害救助法対象外となるため国のお金は出ず、いつも支援の格差が問題になってきました。

そこで、様々な民間支援団体が協力して、岩手、宮城、福島被災者が入るすべての見なし仮設住宅に暖房器具を配布する方向で調整を進めています。岩手の動きが一番速く、12月に入る前にはほとんどの世帯に配り終えています。カリタスは 3900 世帯に配布しました。宮城は 12月に入ってから配布が始まり、年内に終える予定です。カリタスは仙台市の 9100 世帯を、難民を助ける会と共に担当します。福島は現在準備中ですが、難しいのは、県外への避難者が非常に多いということです。住所確認や市町との調整に時間がかかるため、まず県内から先にはじめ、すぐに県外も配布を始められるよう、県、市、支援団体で調整を進めています。

## サポセン人物リレー その1

仙台サポセン常勤スタッフ

カトリック元寺小路教会信徒 三明 昌美

3月11日の大震災で被災しましたが、私も家族も無事でした。津波で家族や家を失った方、原発のため避難生活を余儀なくされている方がたくさんおられる中で、普通に生活できる自分を申し訳なく感じていました。その後、サポートセンターを手伝わせていただくようになり、一緒に働く仙台在住のスタッフの多くが、私と同じような「申し訳なさ」を抱えているのだと気づかされました。そして、全国から来てくださるボランティアさんたちも、似たような気持ちを抱いて、ボランティア活動に参加されているのだとわかりました。



強力なシスターの間でも動じない三明さん！

サポートセンター主催の傾聴講座の中で、「傾聴とは、被災者の心に寄り添うこと、悲しみに寄り添うこと」と教えていただきました。

受付業務というデスクワークをしている自分が役立っているのか、自信の持てない毎日でしたが、震災から半年以上経過して、私の心に刺さっている「申し訳なさ」「無事であることへの罪悪感」は、被災地を忘れないための大切な錨なのだと思います。

## こまつのみたて！

太陽と月を三つずつ持ち、おまけに日の光が二つで美しい！

なんと明るい名前なのか！この明るさに仙台サポセンは何度救われたらう？ 寂しいかな、ひょうきんで明るいサポセンの元気印は鹿児島へ引っ越すと言う。鹿児島がどれだけ明るくなるだろう！いや、仙台サポセンが鹿児島に支部を作りたい。何よりも息災に！